日陽はしづかに発酵し…（1988）

DNI ZATMENIYA
THE DAYS OF ECLIPSE

メディア 映画
ジャンル ドラマ
製作国 ロシア
色彩 Color
時間 128分
初公開日 1995/06/17
公開情報 パンドラ

【解説】

シネマスコープ画面にたっぷり２時間以上展開する、ソクーロフのあやかしの映像世界であるが、この後、いよいよ１９世紀ロシア文学的な内省へと遡行していく作品に比べれば、幾分か一般にも親しみをもってもらえるだろう。主人公マリャーノフは医師として西トルクメニスタンに赴任したロシア人青年で、ヨーロッパとアジアを結ぶその土地の文化のダブル・バインドに戸惑いつつ、患者を診ては学術論文を書く日々を送っている。彼は現地の青年サーシャと友情を培っていたが、二人して差出人不明の小包を受け取ったときから、マリャーノフの生活に歪みが生じ始める。呼びもしないのに姉が“呼ばれたから”とやってきたり、患者の一人が彼に“ものを書くな”と告げた翌日には不可解な死を遂げたり……。そうした中、彼は遥か先の世界の終末を身体で感じとるようになる。そして、ある日、帰宅したマリャーノフは玄関に倒れ込む幼い男の子を発見。精気のない少年はどこから来たかも覚えていず、どこか死の影を帯びている。やがて役人風の男が現れ、この子を無理やりにマリャーノフから奪い去り、途方に暮れた彼は親友サーシャを訪ねるのだが……。セピアに近いオレンジの映像の中、小屋の電灯、自然光のハレーションが目に滲む。具体的な旅を描かない（“魂の彷徨”という手垢のついた言葉を使う他ないのだが）ロード・ムービーのような作品で、どことはなしにエロティックなイメージに満ち溢れている。既製曲の使用も含めた音楽がまた見事だ。

【クレジット】

監督	アレクサンドル・ニコラエヴィッチ・ソクーロフ	Aleksandr Nikolayevich Sokurov
脚本	ユーリー・アラボフ	Yuri Arabov
撮影	セルゲイ・ユリズジッキー	Sergei Yurizditsky
音楽	ユーリィ・ハーニン	Yuri Khanin
出演	アレクセイ・アナニシノフ	
	エスカンデル・ウマーロフ	

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2025 Stingray. All Rights Reserved.